

弓削商船高等専門学校 第3回運営諮問会議報告書

平成19年2月

目 次

はじめに	1
1. 第2回運営諮問会議の提言	2
2. 提言に対する本校の対応	2
3. 第3回運営諮問会議諮問事項	4
4. 審議内容	4
5. 提言	5



はじめに

独立行政法人化した平成16年度、教育研究の質を一層向上させるための外部有識者による評価組織として運営諮問会議を設置いたしました。本年度は2月2日に第3回運営諮問会議を開催しましたので、その内容をまとめたものを公表いたします。

第1回会議では、「本校の特徴を活かした個性的な教育について」「本校に適正な入学生の確保と個性伸長のための教育改善について」、第2回会議では「本校の社会貢献のあり方」「専攻科の発足と内容の充実に向けて」を諮問し、委員の方々からは貴重なご提言をいただきました。

今回の第3回会議では、第2回会議でのご提言に対する対応状況を説明した後、「学生指導について」と「学生寮の運営について」の2項目について諮問いたしました。

「学生指導について」ですが、高等専門学校は学生の年齢の幅が広く、学生の抱える悩み事なども多種多様です。また、昨今よく取り沙汰されている「いじめ」問題についても、未然に防ぐための方策を検討する必要があると考えています。

「学生寮の運営について」ですが、本校は寮生数が全学生数の約半数にのぼり、ここ数年さらに増加傾向にあり、今後も増加が予想されます。それによるポータブルスペースの減少で寮内での人間関係の摩擦が生じやすくなっている現状があり、係る問題の対応策を検討しているところでございます。

会議では、2つの諮問事項に対して、それぞれの委員の立場から大変有益なご提言をいただきました。今回いただきましたご提言は、本校の教育研究活動の改善に役立てていく所存であります。

最後に、ご多忙中にもかかわらず、本校の発展のためご助言をいただきました、西田委員長をはじめ運営諮問委員の方々に厚くお礼申し上げます。

平成19年2月

弓削商船高等専門学校長

西 垣 和

1. 第2回運営諮問会議の提言

前回、平成17年7月11日開催の会議においては、2項目の審議事項に対して、それぞれ下記のとおり提言を行った。

(1) 本校の社会貢献のあり方

- インターンシップ、キャリアサポート等を充実させ学校と企業の協力体制の構築
- 学生に福祉関係のボランティア活動を体験させるなどの社会教育の実践
- 産業界のニーズ、学校のニーズをお互いに把握するための技術フォーラムなどの開催

(2) 専攻科の発足と内容の充実に向けて

- 船舶の管理、人の管理ができ、海上だけではなく様々な物流システムに対応できる新しい時代の高度な実践的技術者の育成

2. 提言に対する本校の対応

第2回会議で行った提言に対する学校の対応として、以下のことについて確認できた。これらのことは今後も継続して努力されることを希望します。

○インターンシップ、キャリアサポート等を充実させ学校と企業の協力体制の構築

〈商船学科〉

商船学科は他の工業系学科のように単位化してはいないが、海運企業からの案内に希望者が応募し実施している。実績は、平成15年度が1社、平成16年度が2社、平成17・18年度は3社で実施している。

キャリアサポートとしては、進路指導主任が主に対応している。特に18年度は「今治外航海運セミナー」を商船学科3、4年生に今治市内の海運会社、今治市と本校の共催で行った。

〈電子機械工学科・情報工学科〉

引受先は、工学（電子・機械工学、情報工学）

に関する製造、建設、卸・小売、運輸・通信、サービス業等の企業、および、公共機関、学校、団体等で、その受け入れ先で実習、見学調査などを実施している。

インターンシップに参加した学生の単位認定については、電子機械工学科では4年次の特別講義1（1単位）で評価し、30時間（ただし、計画書・報告書作成と発表会の時間を含む）を基本としている。情報工学科では特別講義（2単位）の中で評価している。

インターンシップ参加率は、17年度は電子機械工学科が33名（75%）、情報工学科が23名（62.2%）、平成18年度はそれぞれ、25名（55.6%）と29名（65.9%）である。

次にキャリアサポートとしては、各学科に配置されている進路指導主任が主に対応している。その内容を大きく分ければ、1つは低学年次からのエンジニアになるための意識改革と学業への動機付けであり、もう一つは4、5年生への就職指導である。前者に対しては、教員による企業紹介、企業人事担当者や本校の卒業生の協力による就職講演会や会社説明会を実施している。後者に対しては、多くの教員による会社訪問を実施し、多くの企業に求人を依頼するよう行っている。また、履歴書、面接、筆記試験等への助言と指導も行っている。このような努力と企業の理解によって求人倍率は高く、平成18年度は電子機械工学科14.7倍、情報工学科11.7倍である。就職率については、各科ともほぼ100%を維持し続けている。

○学生に福祉関係のボランティア活動を体験させるなどの社会教育の実践

〈弓削丸を利用したボランティア活動〉

本校では、平成18年11月15日（水）に弓削丸を利用して福祉関係のボランティア活動を行った。今回の活動は、福祉施設利用者が社会体験を通じて視野を広げ、社会的マナーの習得と地域交流を図ることを目的とした弓削丸体験航海であり教員と専攻科生で実施した。

このボランティア活動は弓削丸の空き時間を活

用して行われたものであり、神戸港での弓削丸の空き時間を活用して行われたものであり、神戸港内を一周し、船内見学、操船体験など実施した。この体験航海には兵庫県内の社会福祉施設から利用者29名、職員9名の計38名の参加があったが、アンケート調査の結果、参加者は学生等の対応や説明に大変満足していることが窺える。

学校としては、今後も継続して福祉ボランティア活動を行い、社会福祉に対する意識の啓蒙を図っていききたい。

〈ブラスバンド部による慰問活動〉

ブラスバンド部が上島町ディアケアセンターでの演奏活動を年2回と、尾道市長江のこども教室での演奏会を行っている。

〈弓削法皇が原の定期的な清掃活動〉

学生会及びクラブを中心とした月1回程度の清掃と植樹された苗木への水やりを地元ボランティア活動団体（Green Can Do）と共に実施している。

○産業界のニーズ、学校のシーズをお互いに把握するための技術フォーラムなどの開催

平成17年度に設置された専攻科における専攻科生の研究の充実、教員の研究水準の向上、および、専攻科学生、本校教員の研究内容を本科の学生、保護者、地域住民のみならず、弓削島を取り巻く地域の企業等への紹介という目的で、本校の第二体育館において、11月11(土)、12日(日)に「パネルフォーラム」を開催した。今年度は特に専攻科の学生の研究内容の発表に重点を置き、専攻科在籍学生全員に展示を求めた。

展示パネル数は商船学科が22テーマ、電子機械工学科が11テーマ、情報工学科が11テーマで合計44テーマとなり、昨年の28テーマの1.5倍のパネルを展示した。

昨年は企業等への周知が十分ではなかったとの反省から、10日前に上島町をはじめ今治市、因島、尾道市等の企業69社へ、出展の研究内容のテーマと概要を抜粋した資料を同封した案内状を送付した。その結果、20社前後の企業からの訪問があった。

主に専攻科生2、3人ごとで接客および説明を担当させたが、自分以外の研究内容に対する質問が多く、十分には対応できなかったという感想が多く聞かれた。また、企業側からの感想や意見を聴取できなかったことなどが反省点として挙げられ、次回に活かしていきたいと考えている。

なお、地域産業界との一層の連携、交流を深めることを目的にした「技術振興会」の設立については、昨年2月に設立発起人による第1回設立準備会を開催し、同年7月の設立を目標に準備を進めていたが、12月に第2回設立準備会を開催し、本年3月3日(土)に今治市において設立総会を開催することが決定した。

○船舶の管理、人の管理ができ、海上だけではなく様々な物流システムの対応できる新しい時代の高度な実践的技術者の育成

専攻科においては特別研究を最も重要な授業科目としている。専門知識の総合化と深化を図り、自発的問題解決に向けて広い視野から理論的、実践的に考究、実行する能力と創造的技術開発能力を育成することを目的としている。研究成果は、関連学会及び関係論文集等に積極的に発表することを目的とし、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力の向上を図ることとしている。

専攻科では1期生18名全員が阿南市で4月に開催された平成18年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会において研究発表を行った。8月のオープンカレッジには生産システム工学専攻の2期生も含め26名全員が、各々の研究をポスターにシアセムホールに展示した。17年度の学会発表は21件、本校の第28号紀要3件であったが、18年度は9月末までで学会発表22件、本校の第29号紀要16件と昨年をはるかに上回っている。その他、今年度内での口頭発表予定は3月に徳島で開催される日本機械学会中国四国学生会第37回学生会卒業研究発表講演会において数件の発表が予定されている。次年度も、特別研究で行っている、より高度な研究を外部で積極的に発表する予定で指導している。

3. 第3回運営諮問会議諮問事項

平成19年2月2日（金）開催の運営諮問会議において、諮問された事項は以下のとおりである。

（1）学生指導について

地域の高校生の生活指導に見合った学生指導（特に服装と髪型）を実施するために、学生主事、学級担任を中心とした個別指導、校外補導、補導（処分）を行っている。また、悩み事相談への取組は、教員のための講習会（メンタルヘルスケア講習会）、非常勤カウンセラーの増員、学生相談室の設置を行っている。

今後、これらの学生指導への支援は実施していく予定であるが、さらに効果が期待できる指導方法をご提言いただきたい。

（2）学生寮の運営について

現在の学年別の寮生数などから考えて、寮生数は今後も増加する事が予想される。このような寮内の人口密度の増加に伴い、寮内の人間関係において摩擦が生じやすくなり、寮生のストレスも増える傾向にある。

寮生のストレス緩和のために、どのような方策があるか、ご提言頂きたい。

4. 審議内容

〔第2回提言に対する本校の対応〕

- ・ 目的意識を持って将来を考えるためのキャリア教育は義務教育課程でも注目されていることから、その上の高等教育機関において実施されているということが非常に重要である。
- ・ ボランティアというのは学生が社会を知る非常に良い機会になると同時に感化されることもある。
- ・ 地元で開催されるイベントには学生も積極的に参加してほしい。

- ・ パネルフォーラム等の案内を企業の他にも学生の出身中学等へ送ると弓削商船の違った面が知られることになり、学生募集対策の面でも良いのではないかと。
- ・ 企業側の船員に対する企業のニーズは大きく変わってきていて、船舶管理のできる人間が不足してきているのが現状であり、その点を考慮してほしい。
- ・ あまり「頭でっかち」に成りすぎることのないよう、「弓削商船らしさ」を大事にしてほしい。

〔諮問事項〕

（1）学生指導について

- ・ 学生指導については、専門の精神科医とのやりとりをしながら行うべきであり素人判断はさけるべきである。
- ・ 今の学生に関しては、学生の話すことを良く聞いてあげることが非常に有効である。
- ・ 他的高校並みの指導をやっていくには大変なエネルギーが必要であるが、高校や中学校の生徒指導担当の先生方と連携をとりながら、学生指導に活かしてはどうか。
- ・ 学生相談室の利用者の統計資料はできるだけ保管し、集計したものを分析して対策を検討することも必要である。
- ・ 日常の何気ないことでも学生に声を掛けるということが重要ではないか。お互いに声を掛けるということは心を開く第一歩であるので大事にしてほしい。

（2）学生寮の運営について

- ・ 学生寮も学生募集戦略のひとつになるのではないかと。
- ・ 寮生全体でコミュニケーションがとれるようなイベントを実施してはどうか。
- ・ 団体生活の中ではある程度の我慢や協調性は必要である。

5. 提言

第2回会議の提言に対しては、これからも教育研究活動の改善に努力し、さらに発展されることを期待しています。

なお、今回の諮問事項に対しては以下のとおり提言いたします。

(1) 学生指導について

学生相談においては、専門の心療医等と連携を持ちながら実施していくことを提案いたします。また、相談内容等の資料もできるだけ保存し、統計的に処理したものを分析し検討することも必要です。なお、時間を掛けて学生の話聞いてあげることが有効な手段だと思います。

生活指導については、他の高校や中学校の生活指導担当の先生方と連携をしながら実施していくことを提案いたします。日常の何気ないことでも学生に声を掛けることも心を開く第一歩になるので大事にしてほしいと思います。

(2) 学生寮の運営について

寮生全体でコミュニケーションがとれるようなイベントを実施することを提案いたします。

また、貴校の学生寮は寮としては比較的恵まれた環境にあると思います。むしろ、学生募集戦略のひとつにも成り得ると思います。

平成19年2月

運営諮問会議

委員長 神戸大学理事・副学長 西田修身

委員 上島町長 上村俊之

〳 今治市立伯方小学校長 馬越義文

〳 弓削商船高専同窓会長
坂田汽船(株)代表取締役 小田原照明

〳 (財)えひめ産業振興財団専務理事 白石春美

〳 岡山理科大学教授 藤井佳子

〳 因島商工会議所会頭 村上祐司





独立行政法人国立高等専門学校機構 **弓削商船高等専門学校**

〒794-2593 愛媛県越智郡上島町弓削下弓削1000

TEL (0897) 77-4606 (庶務課)

ホームページ <http://www.yuge.ac.jp>
